

特59

464

拾遺和歌集

086084-001-6

特59-464

拾遺和歌集

藤原 公任/撰

上

M22

DBD-0775



巻

結をわらふ素上

一、西三四年申宮の架一、侍々、時の存、存のり、

一、西三四年申宮の架一、侍々、時の存、存のり、

一、西三四年申宮の架一、侍々、時の存、存のり、

一、西三四年申宮の架一、侍々、時の存、存のり、

一、西三四年申宮の架一、侍々、時の存、存のり、

一、西三四年申宮の架一、侍々、時の存、存のり、

一、西三四年申宮の架一、侍々、時の存、存のり、

一、西三四年申宮の架一、侍々、時の存、存のり、

一、西三四年申宮の架一、侍々、時の存、存のり、

一、西三四年申宮の架一、侍々、時の存、存のり、

結をわらふ素上

西三

侍々

時の

存の

存の

り、

り、

り、

り、

り、

り、

り、

り、

り、

り、

り、

り、

り、

り、

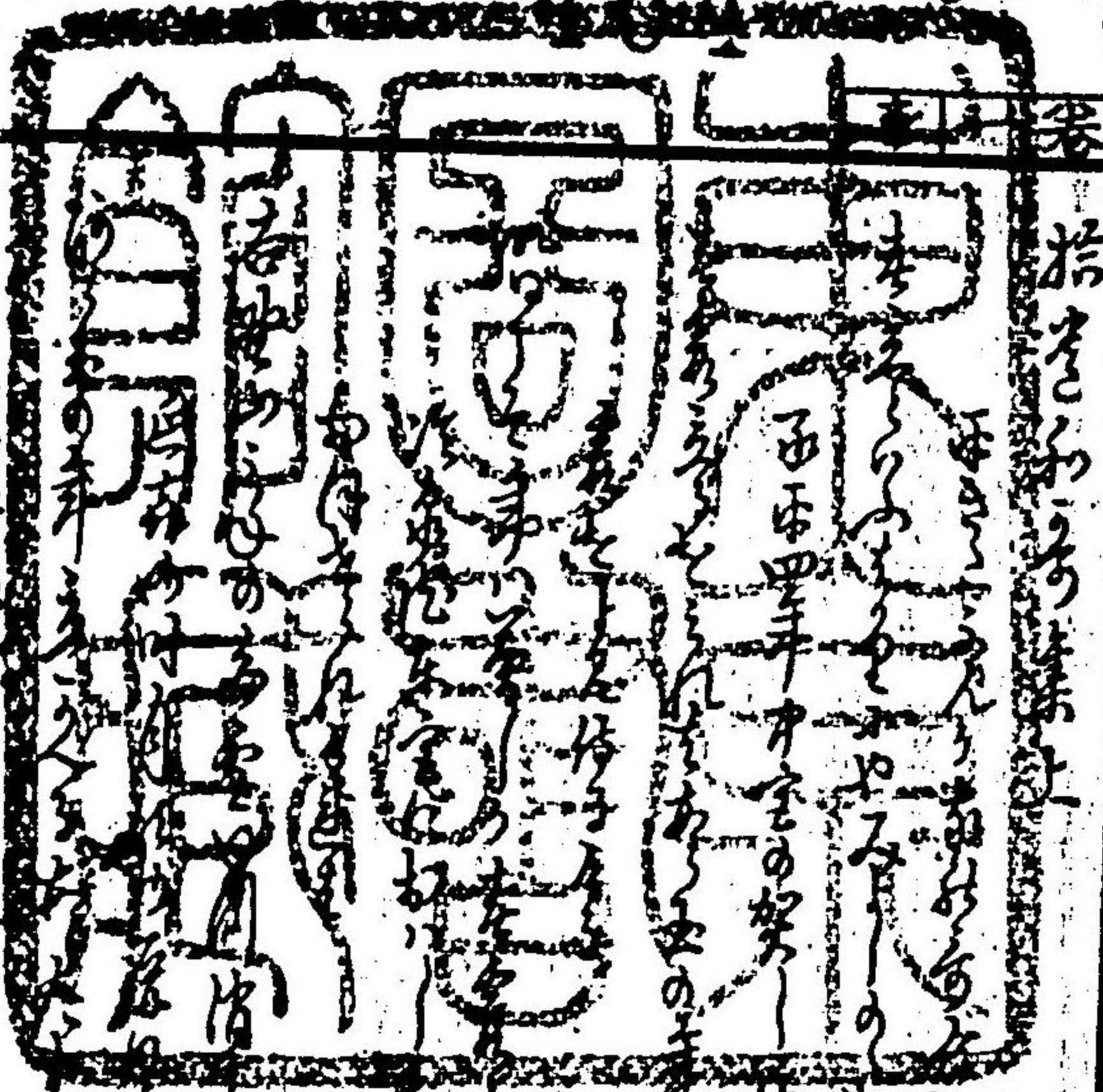
り、

り、

り、

特 159/17298/27

464



水た小るのぬまをけき風ふすまらすらけぬきり

若き上

天を地の時を合に

う海に物にさのしる

とねのそるのさかりん

うの時をたをすつれ

まのけけめまをまらん

うの時をたをすつれ

にふりつる



原

若

若

山

若



影しるし

たままろく新したのあけきり

梅香

はつこころあふかた

まきまろく新したのあけきり

梅香

たのしみ

我々の梅よりおひらき

梅香

天馬十年二月廿九日

雪のあけきり

梅香

うらなまをいふ

おまけしるし

梅香

梅香

梅の香しるし

梅香

梅香はつこころ

梅香はつこころ

梅香

日中時風

梅香はつこころ

梅香

梅香はつこころ

梅香

梅香はつこころ

梅香

梅香はつこころ

梅香

梅香はつこころ

梅香

梅香はつこころ

梅香

梅香はつこころ

梅香

梅香はつこころ

梅香

梅香はつこころ

梅香

梅香はつこころ

梅香

梅香はつこころ

梅香

梅香はつこころ

梅香

梅香はつこころ

梅香

梅香はつこころ

梅香

梅香

二

梅香



吉中の流し... 天原の... 天原の... 天原の...

天原の... 天原の...

吉中... 天原の... 天原の... 天原の...

天原の... 天原の...

吉中... 天原の... 天原の... 天原の...

天原の... 天原の...

吉中... 天原の... 天原の... 天原の... 天原の... 天原の... 天原の...

天原の... 天原の... 天原の... 天原の... 天原の... 天原の... 天原の...

持巻上

橋のうらむに白の藤の花の園  
さう人をもあはしむるは  
赤穂松の時にさうな  
花の本気は

橋をにさうなははくは  
橋の中をさうなははくは

方にさうなははくは  
たのしみは

さうなははくは  
たのしみは

ははくは  
たのしみは

ははくは  
たのしみは

ははくは  
たのしみは

ははくは  
たのしみは

ははくは  
たのしみは

ははくは  
たのしみは

たのしみは



影一す

影一の山崎と申すは、影を消さぬ者の言を聞き

良人

天橋は時よきに

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一す

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

天橋は時よきに

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一す

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一す

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

卷

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一の山崎は、影を消さぬ者の言を聞き

良人

影一す

六





既にして其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
たゞし

今にして其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
是れ其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
天原の時也其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり

伊弉諾大神の御事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
伊弉諾大神の御事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
伊弉諾大神の御事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり

かのうらみは其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
けいふ事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
郭公をいふ事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり

郭公をいふ事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
郭公をいふ事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
郭公をいふ事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり

かすも亦其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
五月の日の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
うたふ事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり

時をいふ事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
夏の時也其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
夏の時也其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり

夏の時也其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
夏の時也其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
夏の時也其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり

夏の時也其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
夏の時也其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
夏の時也其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり

夏の時也其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
夏の時也其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり  
夏の時也其の事なりと云ふ事ありしを我々も亦知る事ありしなり

括弧上



八重子傳志をばらるる者は傳しきたる人こそなまね秋はさかす

秋

秋一らす

秋多きうつくしむあつねのねあふむまのねと秋傳し

秋

秋多きは時は春傳に

秋風あおの更けり天の川に傳しは秋はさかす

秋

秋一らす

天川とて伝傳いかあふねのねあふむまのねと秋傳し

秋

天明とて伝傳の海のうつくしむあつねのねあふむまのねと秋傳し

秋

小秋とて天の川とて伝傳の海のうつくしむあつねのねあふむまのねと秋傳し

秋

秋多きは時は春傳に

秋

秋多きは時は春傳に

秋

秋多きは時は春傳に

秋

秋多きは時は春傳に

秋

秋多きは時は春傳に

秋

おあつね傳志をばらるる者は傳しきたる人こそなまね秋はさかす

一年に一秋とて七夕の夜に人秋なり傳しきたる人こそなまね秋はさかす

秋

左多き傳志をばらるる者は傳しきたる人こそなまね秋はさかす

秋多きは時は春傳に

秋

秋多きは時は春傳に

秋多きは時は春傳に

秋

秋一らす

秋多きは時は春傳に

秋

秋多きは時は春傳に

秋

秋多きは時は春傳に

秋

秋多きは時は春傳に

秋

秋多きは時は春傳に

秋

秋多きは時は春傳に

秋

秋多きは時は春傳に

秋

拾遺上

十一

女市子自らあつらひむつるれをあやなく言やんまらん  
たのし〜ん

お度は盡つます女市子あやれらうし人かまふれを  
暁暁にみ裁ちておまうりて

日よしおんれはあやぬ女市子の人はやこよひ捨神志あは  
か身をうらむおうりけしおまうりて捨侍々らた

お程の茶あゆや打をうり程あふたとお金の者あうらん  
お度は風風不

かりおをさうりたりや梅の神おをさうり程あふたと  
お〜りす

秋の神おをさうりたに女市子あかりはの〜人かまふれ  
かりはを〜おいさうれと女市子あふらふらおい捨侍あは

お茶は捨侍風風に小窓〜うら〜たるあ  
かり母の〜人の〜おれは女市子あ花の枝を〜あさうりたる

お市子院のおまふらお裁ち〜しせ捨侍をこれよめと  
捨侍を〜ありたるを

おとるは秋にあけまして初月お捨侍の夜毎に〜さうり  
た〜り〜

お娘の笑は思ふ〜お〜お〜〜ゆ〜お〜さ〜お〜り〜の〜お  
お娘の笑は思ふ〜お〜お〜〜ゆ〜お〜さ〜お〜り〜の〜お

お娘の笑は思ふ〜お〜お〜〜ゆ〜お〜さ〜お〜り〜の〜お  
お娘の笑は思ふ〜お〜お〜〜ゆ〜お〜さ〜お〜り〜の〜お

お娘の笑は思ふ〜お〜お〜〜ゆ〜お〜さ〜お〜り〜の〜お  
お娘の笑は思ふ〜お〜お〜〜ゆ〜お〜さ〜お〜り〜の〜お

お娘の笑は思ふ〜お〜お〜〜ゆ〜お〜さ〜お〜り〜の〜お  
お娘の笑は思ふ〜お〜お〜〜ゆ〜お〜さ〜お〜り〜の〜お

お娘の笑は思ふ〜お〜お〜〜ゆ〜お〜さ〜お〜り〜の〜お  
お娘の笑は思ふ〜お〜お〜〜ゆ〜お〜さ〜お〜り〜の〜お

あふ風

秋の月西小あつきのつらさをつらに交り程の影をともさる

ほろり

因縁陸中時八月十五夜のまはる風よ

あふのまはる海をたふしつらさを人かへてつらさを秋の月

ほろり

正秋時八月十五夜秋の影を人かへてつらさを秋の月

ほろり

夏あつた光さやまを秋の月をまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

月一陸中は風風小

り月とあつたまはるの月のまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

影つらに

陸中まはるとあつた秋の月をまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

陸中まはるとあつた秋の月をまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

笑まれのつらさをあひやうとれ秋の月をまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

あつた秋のまはるとあつた秋の月をまはるとつらさをあひやうとれ

よほるとつらさを秋の影をまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

風風小

秋とれまはるとあつた秋の月をまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

たつらに

あつたまはるとあつた秋の月をまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

あつたまはるとあつた秋の月をまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

あつたまはるとあつた秋の月をまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

あつたまはるとあつた秋の月をまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

あつたまはるとあつた秋の月をまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

あつたまはるとあつた秋の月をまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

あつたまはるとあつた秋の月をまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

あつたまはるとあつた秋の月をまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

あつたまはるとあつた秋の月をまはるとつらさをあひやうとれ

ほろり

結末の上



よもぎのたねは川原をまきしゆり本家糸の色替りゆ  
たご

風をよみ家から衣さつ時を秋のしら雲の色替りゆ  
ゆき

秋の世もさかぬ物うらもさかぬ物さかぬ物さかぬ物  
ゆき

秋の世もさかぬ物うらもさかぬ物さかぬ物さかぬ物  
ゆき

秋の世もさかぬ物うらもさかぬ物さかぬ物さかぬ物  
ゆき

秋の世もさかぬ物うらもさかぬ物さかぬ物さかぬ物  
ゆき

秋の世もさかぬ物

おきあつたをさかぬ物うらもさかぬ物さかぬ物さかぬ物  
ゆき

おきあつたをさかぬ物うらもさかぬ物さかぬ物さかぬ物  
ゆき

おきあつたをさかぬ物うらもさかぬ物さかぬ物さかぬ物  
ゆき

おきあつたをさかぬ物うらもさかぬ物さかぬ物さかぬ物  
ゆき

おきあつたをさかぬ物うらもさかぬ物さかぬ物さかぬ物  
ゆき

おきあつたをさかぬ物うらもさかぬ物さかぬ物さかぬ物  
ゆき

おきあつたをさかぬ物

おきあつたをさかぬ物

オウのてきんか  
 石巻のてきんか  
 枝まわり〜  
 影〜  
 石巻の松葉〜  
 井生〜  
 付〜  
 か〜  
 二条〜  
 か〜  
 影〜  
 か〜  
 石巻内中〜

石巻  
 石巻  
 石巻  
 石巻  
 石巻  
 石巻  
 石巻  
 石巻  
 石巻

石巻のてきんか  
 影〜  
 石巻の松葉〜  
 大井川〜  
 影〜  
 石巻のてきんか  
 影〜  
 石巻の松葉〜  
 大井川〜  
 影〜  
 石巻のてきんか  
 影〜

石巻  
 石巻  
 石巻  
 石巻  
 石巻  
 石巻  
 石巻  
 石巻  
 石巻

石巻上

四卷

さきより林のかきこたへてお物いふはあつたのちかたをさへさき

さき

此まはつ時内付のりいお物いふはあつた

はつりのりかたはあつたさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

はつり

御代本にさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

はつり

時内付のり

かたはさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

はつり

形さき

はつりさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

はつり

はつりさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

はつり

はつりさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

はつり

かたはさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

はつり

はつりさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

はつり

はつりさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

はつり

はつり

はつりさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

はつり

はつり

はつりさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

はつり

はつり

はつりさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

はつり

はつりさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

はつり

はつりさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

はつり

はつりさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

はつり

はつり

はつり

事の上は情を思はせむとせむと物とありかたしとす

とせむと物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす

物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす

物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす

物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす

物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす

物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす  
物とありかたしとす

思ひの由りては尋ねて見ゆらん  
 かなしくも侍もては侍もては侍も  
 思ひの由りては尋ねて見ゆらん  
 かなしくも侍もては侍もては侍も

尋ねて見ゆらん  
 かなしくも侍もては侍もては侍も

かなしくも侍もては侍もては侍も

侍もては侍もては侍も

ては侍もては侍も

侍もては侍も

ては侍も

侍も

も

侍も

も

侍も

思ひの由りて

尋ねて見ゆらん

かなしくも

侍もては侍も

ては侍も

侍も

ては侍も

侍も

も

侍も

も

侍も



陸軍の少佐に任ぜられた。...

大正の初めに...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

たゞ

かゝるいふ事柄のたゞのSurrender of the East India Company

イギリス

その事柄にあらざるに

この事柄にあらざるに、税のたゞの事柄にあらざるに、

この事

その事柄にあらざるに、

その事柄にあらざるに、その事柄にあらざるに、

その事

その事柄にあらざるに、その事柄にあらざるに、

その事

その事柄にあらざるに、その事柄にあらざるに、

その事

その事柄にあらざるに、その事柄にあらざるに、

その事

その事柄にあらざるに、

その事柄にあらざるに、その事柄にあらざるに、

その事

その事柄にあらざるに、

その事柄にあらざるに、その事柄にあらざるに、

その事

その事柄にあらざるに、その事柄にあらざるに、

その事

その事柄にあらざるに、その事柄にあらざるに、

その事

その事柄にあらざるに、

その事柄にあらざるに、その事柄にあらざるに、

その事

その事柄にあらざるに、

その事柄にあらざるに、その事柄にあらざるに、

その事

その事柄にあらざるに、

その事柄にあらざるに、その事柄にあらざるに、

その事

その事柄にあらざるに、

拾遺

十一



この書は、その著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

たゞし

著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

著者の著した

この書は、その著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

別

著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

この書は、その著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

著者の著した

この書は、その著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

この書は、その著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

たゞ

著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

この書は、その著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

著者の著した

この書は、その著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

この書は、その著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

この書は、その著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

この書は、その著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

この書は、その著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

この書は、その著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

この書は、その著者の著した『Confession of a Sinner』と云ふ

たりのちりき

かまふらんあつしきまめあはさけろれねあつしきかん

別海にまてた人のうきねあはさけろれねあつしきかん

あつしきかんあつしきかんあつしきかんあつしきかん

あつしきかんあつしきかんあつしきかんあつしきかん

あつしきかんあつしきかんあつしきかんあつしきかん

あつしきかんあつしきかんあつしきかんあつしきかん

あつしきかん  
あつしきかん  
あつしきかん  
あつしきかん

たりのちりき

別海にまてた人のうきねあはさけろれねあつしきかん

あつしきかんあつしきかんあつしきかんあつしきかん

あつしきかんあつしきかんあつしきかんあつしきかん

あつしきかんあつしきかんあつしきかんあつしきかん

あつしきかんあつしきかんあつしきかんあつしきかん

あつしきかんあつしきかんあつしきかんあつしきかん

あつしきかんあつしきかんあつしきかんあつしきかん

あつしきかん

あつしきかん

あつしきかん

あつしきかん

あつしきかん

Handwritten text line 1

Handwritten label 1

Handwritten text line 2

Handwritten label 2

Handwritten text line 3

Handwritten text line 4

Handwritten label 3

Handwritten text line 5

Handwritten text line 6

Handwritten text line 7

Handwritten text line 8

Handwritten text line 9

Handwritten text line 10

Handwritten text line 11

Handwritten text line 12

Handwritten text line 13

Handwritten text line 14

Handwritten text line 15

Handwritten text line 16

Handwritten text line 17

Handwritten text line 18

Handwritten text line 19

Handwritten text line 20

Handwritten text line 21

Handwritten text line 22

Handwritten text line 23

Handwritten text line 24

Handwritten text line 25

Handwritten text line 26

Handwritten text line 27

Handwritten text line 28

Handwritten text line 29

Handwritten text line 30

Handwritten label 4

Handwritten label 5

Handwritten label 6

Handwritten label 7

Handwritten label 8

Handwritten label 9

Handwritten label 10

Handwritten label 11

Handwritten label 12

Handwritten text in a vertical column, likely a transcription of a letter or document. The characters are in a cursive style, possibly a historical form of Japanese or a related script. The text is enclosed in a rectangular border.

Handwritten text in a vertical column, similar to the first page. It appears to be a continuation of the text or a separate entry. The characters are in a cursive style. The text is enclosed in a rectangular border.

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、



いぬの

恒吉はたののねんはしりれに回ら降るSawamiのいせ

おはのすかきすのういぬぬふふははしりりきりきり

おもとくおはかさいぬはふんいそくはしあふあふらん

横をいり今もあふたに秋秋の作をくういすのゆらん

是りのゆふあふたれいああはいうふふふふのけり時おれ

はをよりあまをたれいすははのす川の橋のみさあ

あう地は竹々ははめはあふふいひたれいああ

いぬのいぬの

あふのいぬのいぬのあふのいぬのいぬのいぬのいぬの

あふのいぬのいぬのあふのいぬのいぬのいぬのいぬの

あふのいぬのいぬのあふのいぬのいぬのいぬのいぬの

あふのいぬのいぬのあふのいぬのいぬのいぬのいぬの

あふのいぬのいぬのあふのいぬのいぬのいぬのいぬの

あふのいぬのいぬのあふのいぬのいぬのいぬのいぬの

あふのいぬのいぬのあふのいぬのいぬのいぬのいぬの

いぬの

いぬの

いぬの

いぬの

いぬの

いぬの

いぬの

いぬの

いぬの

いぬの

いぬの

Andurath

Sandoo Nijunin enu Gunu... chandathu... Gunu...  
chandathu

chandathu

chandathu... Gunu...  
chandathu

chandathu

chandathu... Gunu...  
chandathu

chandathu

chandathu... Gunu...  
chandathu

chandathu

chandathu... Gunu...  
chandathu

chandathu

chandathu... Gunu...  
chandathu

chandathu

chandathu... Gunu...  
chandathu

chandathu

chandathu... Gunu...  
chandathu

chandathu

chandathu... Gunu...  
chandathu

chandathu

chandathu... Gunu...  
chandathu

chandathu

chandathu... Gunu...  
chandathu

chandathu

chandathu... Gunu...  
chandathu

chandathu

chandathu... Gunu...  
chandathu

chandathu

chandathu... Gunu...  
chandathu

chandathu



古傳  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

1. 第一卷  
 2. 第二卷  
 3. 第三卷  
 4. 第四卷  
 5. 第五卷  
 6. 第六卷  
 7. 第七卷  
 8. 第八卷  
 9. 第九卷  
 10. 第十卷

八卷

1. 第一卷  
 2. 第二卷  
 3. 第三卷  
 4. 第四卷  
 5. 第五卷  
 6. 第六卷  
 7. 第七卷  
 8. 第八卷  
 9. 第九卷  
 10. 第十卷

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or letter. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. At the bottom right of the page, there are two small characters: '申' (Shin) and '巳' (Shi).

Handwritten text in a cursive script, similar to the previous page. It consists of approximately 12 horizontal lines. At the bottom right of the page, there are several small characters: '申' (Shin), '巳' (Shi), and '子' (Shi).

Handwritten characters at the bottom of the page, possibly a signature or a date.

昔の世に... 遊のよ... 大正... 此の... といふ...

昔の世に... 遊のよ... 大正... 此の... といふ...

あつたのうらなへてあつたはらうらなはあつたあつたあつたあ

のうらなへてあつた

わつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

たつたあつた

かこのあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

うらなあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

りあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

たつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

うらなあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあ

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、  
 十一、  
 十二、  
 十三、  
 十四、  
 十五、  
 十六、  
 十七、  
 十八、  
 十九、  
 二十、  
 二十一、  
 二十二、  
 二十三、  
 二十四、  
 二十五、  
 二十六、  
 二十七、  
 二十八、  
 二十九、  
 三十、  
 三十一、  
 三十二、  
 三十三、  
 三十四、  
 三十五、  
 三十六、  
 三十七、  
 三十八、  
 三十九、  
 四十、  
 四十一、  
 四十二、  
 四十三、  
 四十四、  
 四十五、  
 四十六、  
 四十七、  
 四十八、  
 四十九、  
 五十、

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、  
 十一、  
 十二、  
 十三、  
 十四、  
 十五、  
 十六、  
 十七、  
 十八、  
 十九、  
 二十、  
 二十一、  
 二十二、  
 二十三、  
 二十四、  
 二十五、  
 二十六、  
 二十七、  
 二十八、  
 二十九、  
 三十、  
 三十一、  
 三十二、  
 三十三、  
 三十四、  
 三十五、  
 三十六、  
 三十七、  
 三十八、  
 三十九、  
 四十、  
 四十一、  
 四十二、  
 四十三、  
 四十四、  
 四十五、  
 四十六、  
 四十七、  
 四十八、  
 四十九、  
 五十、



小宗左大臣まゝのりかゝねて後のまにむかひは

小宗左大臣

あまのむかひは

あまのむかひ

あまのむかひは

あまのむかひ

あまのむかひは

あまのむかひ

あまのむかひは

あまのむかひ

あまのむかひは

あまのむかひ

あまのむかひは

あまのむかひ

あまのむかひは

あまのむかひ



田舎のうらやまをいふは、  
うらやま

古の虎のうらやまをいふは、  
うらやま

あつちのうらやまをいふは、  
うらやま

あつちのうらやまをいふは、  
うらやま

あつちのうらやまをいふは、  
うらやま

あつちのうらやまをいふは、  
うらやま

あつちのうらやまをいふは、  
うらやま

うらやま

あつちのうらやまをいふは、  
うらやま

あつちのうらやまをいふは、  
うらやま

あつちのうらやまをいふは、  
うらやま

あつちのうらやまをいふは、  
うらやま

あつちのうらやまをいふは、  
うらやま

あつちのうらやまをいふは、  
うらやま

あつちのうらやまをいふは、  
うらやま

うらやま

うらやま

うらやま

うらやま

うらやま

うらやま

うらやま









おれらのよき宿なり

おれらのよき宿なり *おれらのよき宿なり*

後ひま

*おれらのよき宿なり* *おれらのよき宿なり* *おれらのよき宿なり*  
*おれらのよき宿なり* *おれらのよき宿なり* *おれらのよき宿なり*

長坂

*おれらのよき宿なり* *おれらのよき宿なり* *おれらのよき宿なり*  
*おれらのよき宿なり* *おれらのよき宿なり* *おれらのよき宿なり*

おれらのよき宿なり *おれらのよき宿なり* *おれらのよき宿なり*  
*おれらのよき宿なり* *おれらのよき宿なり* *おれらのよき宿なり*

*おれらのよき宿なり* *おれらのよき宿なり* *おれらのよき宿なり*  
*おれらのよき宿なり* *おれらのよき宿なり* *おれらのよき宿なり*

持ま







十卷

この世の事柄は皆人の心の中にあるものなり  
心の中にあるものは皆人の心の中にあるものなり  
心の中にあるものは皆人の心の中にあるものなり

非あり

此の世の事柄は皆人の心の中にあるものなり  
心の中にあるものは皆人の心の中にあるものなり  
心の中にあるものは皆人の心の中にあるものなり

此の世の事柄は皆人の心の中にあるものなり  
心の中にあるものは皆人の心の中にあるものなり  
心の中にあるものは皆人の心の中にあるものなり

非あり

未修  
注所  
注所

1. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 2. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 3. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 4. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 5. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 6. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 7. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 8. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 9. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 10. 諸君の御覧の如く、此の書は、

11. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 12. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 13. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 14. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 15. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 16. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 17. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 18. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 19. 諸君の御覧の如く、此の書は、  
 20. 諸君の御覧の如く、此の書は、

Handwritten text in a cursive script, likely a list or series of entries. The text is arranged in approximately 10 lines, with some lines starting with a small symbol or character. The script is dense and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, similar to the top page. It consists of about 10 lines of text, with some lines beginning with a small mark. The handwriting is consistent with the top page.

拾遺記卷之九  
唐高祖武皇帝  
武皇帝名世祖  
字高宗  
武皇帝名世祖  
字高宗

拾遺記卷之九

